

新興、コロナで戦略転換

富山県地盤の新興企業が新型コロナウイルスの感染拡大を受けて事業計画を練り直している。雨着企画・販売のカジメイク（高岡市）は2020年夏としていた上場目標を3～4年後にした。航空会社のジェイ・キャス（東京・千代田）も富山―関西国際空港線の就航を約1年延期する。新型コロナで変わるニーズに対応した商品・サービスを提供して成長を狙う。

「外出自粛の影響から5月の販売額は前年同月比2割減った。確度の高い業績見直しをつくれる

富山県の新設法人は減少

	新設法人	前年比 (%)	会社数に占める比率 (%)
富山県	545	▲2.85	2.8
石川県	778	0.9	3.35
福井県	512	5.56	3.13
全国	13万1292	1.79	4.77

(注) 2019年実績、▲はマイナス
(出所) 東京商工リサーチ

上場目標を3～4年後に

▲カジメイク ▼ジェイ・キャス

富山―関西空線の就航延期



ウェーブ 富山

状況ではない」。カジメイクで上場準備にかかわってきた社員は嘆く。4月に東京証券取引所に上場を申請し、7月にジャック市場へ上場する腹づもりだった。ただ、上場に欠かせない将来の収益計画の策定がコロナ禍で難しくなった。

相次ぐ豪雨を背景にレインコートの販売を伸ばしてきた。20年7月期の売上高は、現段階で前期比2%程度増の約62億円と、新型コロナウイルスの影響を織り込んで増収となる見込みだ。今後はレインコートで培った技術でカジュアル衣料を強化する計画だった。

東証は22年に市場改革を実施し、上場基準を厳格にすると思われる。23～24年の上場を目指すカジメイクも「改めて経営体質を強化する必要がある」（同社幹部）。M&A（合併・買収）と新型コロナウイルスに対応した商品づくりに取り組む。

専用雨具を充実
M&Aは防水関連の雑貨など、同社の縫製ノウハウを生かせる領域が対象になりそうだ。経営環境の悪化で事業継続を諦める企業が増える想定され、選択肢が多くなる。商品では感染を避けるため自転車通勤が増える予想し、専用の雨具などを充実させる。

カジメイクは3～4年後の上場を目指す（本社の商品展示スペース）

富山県に本社を置く企業の上場は、16年3月の販促支援サービスのアイドママーケティングコミユニケーションが最後。福井県では4月に自動縫製機の松屋アルアンドディ、石川県では18年に情報システムのシステムサポートが上場した。

東京商工リサーチによると、19年の富山の新設法人は545社と前年比2・85%減った。北陸3県で唯一のマイナス。新顔の成長企業が少ないが、カジメイクは富山で久しぶりの上場候補として注目されていた。

託研究は延期になったものの、新しい顧客からの問い合わせが増えた」と話すのはアルハイテック（高岡市）の水木伸明専務。13年設立の同社は、特殊溶液を使ってアルミニウム廃棄物から水素を発生させる技術を持つ。水素関連の受託研究は数カ月の延期となり、一時的ながら収入に響く。一方、自前のエネルギーを確保したい企業から、水素を利用した発電の問題の成長企業があるという。

新型コロナウイルスの感染拡大によって原材料のサプライチェーン（供給網）の多様化を検討する動きが出ている。9月までにエンジニアを増やし、技術開発や営業に力を入れる。

出資交渉できず
ジェイ・キャスは19年秋、富山空港を主要な発着地のひとつとする事業計画を発表した。21年秋から70～80人乗りの機体で富山―関西空線を1日4往復するつもりだった。ただ、「ここ数カ月、新型コロナウイルスの影響で富山の企業に向いて出資を要請する交渉ができなかった」（白根清司社長）ことから、就航時期を22年夏と約1年延ばした。

現在、富山県と大阪府を結ぶ直通列車はない。白根社長は「関西か富山の企業に在籍し、もう片方の場所勤務する会社員の移動需要がある」と期待する。7月1日付で事業主体となる「ジェイキャス航空」を資本金1000万円で設立し、9月までに5億円まで増やそうとしている。

社会や経済の変革期には新しい産業やビジネスが育つとされる。新興企業は試練を克服して成長軌道に乗ることができれば、地域経済の活性化に一役買いそうだ。（国司田拓児）